

スポーツウエルネス学学位プログラム（博士前期課程）
Master's Program in Sport and Wellness Promotion

授与する学位の名称	修士(スポーツウエルネス学)〔Master of Sport and Wellness Promotion〕	
人材養成目的	スポーツウエルネスの推進に携わってきた実務経験を基盤として、両者の相乗的な推進効果を生み出す理念と方法を理解し、そのための基本政策や戦略を企画・立案・分析する能力、必要な資源を査定しシステム化する能力、高度なシステムを適切にマネジメントする能力、合理的なプログラムを開発する能力等を有した実践的な高度専門職業人、地域・社会の発展や課題解決に貢献できるマネジメント人材を養成する。	
養成する人材像	スポーツ団体、行政、企業等の専門家集団の中でリーダーシップを発揮しスポーツウエルネスの一層の発展に寄与する人材	
修了後の進路	競技団体、国立センター、地方自治体、教員、スポーツ・ウエルネス関連企業、博士後期課程への進学等	
ディプロマポリシー		
筑波大学大学院学則及び関係規則に規定する博士前期課程の修了の要件を充足したうえで、次の知識・能力を有すると認められた者に、修士(スポーツウエルネス学)の学位を授与する。		
知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の活用力：高度な知識を社会に役立てる能力	① 研究等を通じて知を社会に役立てた(または役立てようとしている)か ② 幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか	スポーツウエルネス論概論、スポーツウエルネス方法論、スポーツウエルネス研究方法論Ⅰ、スポーツウエルネス研究方法論Ⅱ、スポーツプロモーション研究方法論Ⅳ、ヘルスプロモーション研究方法論Ⅳ、スポーツウエルネス医学、実践的都市データ&医療介護データ活用論、実践的都市データ&医療介護データ活用論、修士論文作成(特定課題研究報告書作成)、学会発表など
2. マネジメント能力：広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	① 大きな課題に対して計画的に対応することができるか ② 複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか	スポーツマネジメント論特講、スポーツマネジメント論演習1、スポーツマネジメント論演習2、スポーツウエルネス起業法、エビデンスベースのハイパフォーマンス支援策、ウエルネスマーケティング、外部コンテスト等への参加など
3. コミュニケーション能力：専門知識を的確に分かりやすく伝える能力	① 研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ② 研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか	スポーツウエルネス論概論、スポーツウエルネス方法論、スポーツヘルスプロモーション研究方法論Ⅰ、スポーツヘルスプロモーション研究方法論Ⅱ、スポーツマネジメント論演習1、スポーツマネジメント論演習2、スポーツマネジメント論実習、スポーツウエルネスビジネスに関わる法務・会計・ファイナンス、スポーツウエルネスにおける生成AI活用法、スポーツビジネス開発論、学会発表など
4. チームワーク力：チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	① チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ② 自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか	スポーツウエルネス方法論、スポーツマネジメント論演習1、スポーツマネジメント論演習2、スポーツマネジメント論実習、スポーツ価値創造論、スポーツウエルネスビジネスに関わる法務・会計・ファイナンス、スポーツビジネス開発論、学会での質問、セミナーでの質問など
5. 国際性：国際社会に貢献する意識	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ② 国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するか	スポーツマネジメント論特講、トップスポーツ論特講、健康開発プログラム論特講、コミュニケーション論特講、ヘルスプロモーション論特講、スポーツウエルネス起業法、エビデンスベースのハイパフォーマンス支援策、スポーツウエルネスにおける生成AI活用法、国外での活動経験、留学生との交流など
6. 研究力：スポーツウエルネス分野における研究課題設定と研究計画を遂行するための基礎的な知識と能力	① スポーツウエルネス分野に関する社会的課題について、科学的探究心、論理的思考力、俯瞰力をもって精査することができるか ② スポーツウエルネス分野に関する社会的課題の解決に向けた適切な研究計画を立案、作成ができるか ③ スポーツウエルネス分野に関する適切な修士論文を完成させ、発表することができるか	スポーツヘルスプロモーション研究方法論Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ、スポーツマネジメント論特講、スポーツマネジメント論演習1,2、スポーツウエルネス医学、実践的都市データ&医療介護データ活用論、エビデンスベースのハイパフォーマンス支援策、学会発表、修士論文作成(特定課題研究報告書作成)など

7. 専門知識：スポーツウエルネス分野における高度な専門知識と運用能力	スポーツウエルネス分野における高度な専門知識を修得し、課題解決にむけた企画・開発をすることができるか	スポーツウエルネス論概論、スポーツウエルネス方法論、スポーツマネジメント論特講、スポーツマネジメント論演習1,2、スポーツウエルネスにおける生成AI活用法、エビデンスベースのハイパフォーマンス支援策、関連領域の学会や研修会への参加など
8. 倫理観：スポーツウエルネス分野の基礎的研究能力を有する人材または高度専門職業人にふさわしい倫理観と倫理的知識	スポーツウエルネス分野の基礎的研究能力、倫理観、倫理的知識を修得しているか	スポーツウエルネス論概論、スポーツウエルネス方法論、スポーツマネジメント論特講、スポーツマネジメント論演習1,2、スポーツウエルネス医科学、実践的都市データ&医療介護データ活用論、スポーツビジネス開発論、倫理講習会受講、APRINなど倫理関連のe-learning 受講など

学位論文に係る評価の基準

本学位プログラムでは、修士論文と特定課題研究報告書の二つを、学位論文として位置づけている。そして課程修了の学位として修士（スポーツウエルネス学）を取得することができる。

< 修士論文 >

スポーツまたは健康に関するテーマに則した調査、実験結果の統計学的、科学的検討が行われていること、あるいは文献検討を通した論理的妥当性と内容の妥当性、ならびに理論的創造性があること。

- 1) 研究目的の設定
- 2) 先行研究の検討と本研究の課題と方法
- 3) 結果と考察、あるいは研究の内容
- 4) 結論および今後の課題

< 特定課題研究報告書 >

スポーツまたは健康に関する特定の課題について、実践的技法を用いて課題解決や目標達成に取組み、その経緯と成果について妥当な考察がなされ、実証的創造性が認められること。

- 1) 研究課題の設定とねらい
- 2) 課題解決へのプロジェクト計画
- 3) プロジェクトの展開と評価
- 4) プロジェクトの成果と考察

(学位論文の評価基準)

1. 高度な課題解決力向上を支える研究力とマネジメント力
 2. 俯瞰的な視野と柔軟な思考力
 3. 様々な領域の人材とチームを組んで課題を解決する能力
 4. 高度なプロジェクト推進力と解決力
 5. 最先端の研究技法を駆使して、グローバルなレベルで問題解決できる能力
- の5つの評価項目について妥当と認められること、選択した学位論文それぞれの目的・特徴に合致していることに加えて、スポーツヘルスプロモーション分野、スポーツウエルネスマネジメント分野における社会的、あるいは学術的意義の高い論文であると判断され、かつ最終試験によって合格と判定されること。
- 審査委員の体制：学位論文の審査等を実施するために設置する学位論文審査委員会は、主査1名と2名以上の副査で構成する。
- 審査方法及び項目等：学位論文、最終試験（発表及び口頭試問）により、総合的に判断する。

カリキュラム・ポリシー

本学位プログラムはスポーツヘルスプロモーション分野とスポーツウエルネスマネジメント分野（協働大学院方式）からなる。

スポーツならびにヘルス領域の基礎的、実践的な知識や技能を身に付けるとともに、スポーツとヘルスの相乗的な推進効果を生み出す理念と方法を理解し、そのための基本政策や戦略を企画・立案・分析する能力、必要な資源を査定システム化する能力、高度なシステムを適切にマネジメントする能力、合理的なプログラムを開発する能力を身に付けるためのカリキュラムを設計している。更には、科学的探究心、論理的思考力、俯瞰力を身に付け、科学的、論理的、客観的かつ本質的な課題解決法の構築力や開発力の向上を目指した科目、産官学の連携から高度な実践的能力を獲得し、地域・社会の発展や課題解決に貢献できるマネジメント能力を身に付けるための科目を通して、スポーツウエルネスに関連する高度職業人が育成できる教育課程を編成している。

教育課程の 編成方針	・知の活用力：スポーツウエルネス論概論、スポーツウエルネス方法論、スポーツウエルネス研究方法論Ⅰ、スポーツマネジメント論特講、トップスポーツ論特講などで修得する。 ・マネジメント能力：スポーツマネジメント論特講、スポーツマネジメント論演習Ⅰ、スポーツマネジメント論演習Ⅱなどで修得する。 ・コミュニケーション能力：スポーツウエルネス研究方法論Ⅰ、Ⅱ、スポーツプロモーション研究方法論Ⅳ、スポーツマネジメント論演習Ⅰ、スポーツマネジメント論演習Ⅱ、スポーツマネジメント論実習、学会発表などで修得する。 ・チームワーク力：スポーツウエルネス方法論、スポーツマネジメント論演習Ⅰ、スポーツマネジメント論演習Ⅱ、スポーツマネジメント論実習などで修得する。 ・国際性：スポーツマネジメント論特講、トップスポーツ論特講、ヘルスデザイン論特講、コミュニティメンタルヘルス論特講、ヘルスプロモーション論特講などで修得する。 ・研究力：スポーツウエルネス研究方法論Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ、スポーツマネジメント論特講、スポーツマネジメント論演習Ⅰ,Ⅱなどで修得する。 ・専門知識：スポーツウエルネス論概論、スポーツウエルネス方法論、スポーツマネジメント論特講、スポーツマネジメント論演習Ⅰ,Ⅱ、国際情報のインテリジェンス、女性、シニア、障がい者の健幸支援、スポーツによる地域活性化、スポーツウエルネス政策、人生100年時代の包摂的健康都市などで修得する。 ・倫理観：スポーツウエルネス論概論、スポーツウエルネス方法論、スポーツマネジメント論特講、スポーツマネジメント論演習Ⅰ,Ⅱ、倫理講習会受講、APRINなど倫理関連の e-learning 受講などで修得する。 なお、学生の専攻分野を軸として、関連する分野の基礎的素養や広い視野、汎用的知識・能力の涵養に資するよう、学術院共通専門基盤科目から1単位を履修することを推奨する。
学修の方法 ・プロセス	・1年次に、専門の基礎能力を修得するために、春学期に必修科目として、概論(2単位)と方法論(1単位)が設定されている。また、研究力の向上を目的として、2年次では、研究方法論ⅠおよびⅡ(計2単位、必修)が設定されている。 ・スポーツヘルスプロモーション分野では、1-2年次に、関連分野の基礎能力、プロモーション実践基礎能力、プレゼンテーション・コミュニケーション能力を修得するために、スポーツプロモーション領域、またはヘルスプロモーション領域のどちらかを選択し、選択した所属領域専門科目群(選択)の特講、演習、実習及び他領域の特講を中心に計11単位以上を履修する。また、スポーツヘルスプロモーション分野の専門科目群(関連)から4単位以上、研究主題に関連するスポーツウエルネスマネジメント分野の専門科目群(選択)から4単位以上を履修する。 ・スポーツウエルネスマネジメント分野では、スポーツヘルスプロモーション分野の専門科目群に加え、スポーツウエルネスマネジメント分野の専門科目群を中心に17単位以上を履修する。 ・以上計30単位以上取得する。
学修成果の 評価	・各授業科目では、担当教員による厳正な評価を行なう。 ・2年次10月の修士論文中間発表会では、研究発表の内容について、本学位プログラム専任教員全員出席のもと、以下の達成基準で評価される。 1) 研究の内容が、スポーツプロモーション、ヘルスプロモーションの発展に寄与するものであり、研究の実施において倫理的な問題がないか。 2) 研究の意義、目的が明確に設定され、先行研究について検討され、適切な研究方法を用いて研究しているか。 3) 指導教員から見て学位論文として完成への見通しが持てるものか。 ・提出された学位論文は、人間総合科学学術院が設置する学位論文審査委員会(主査1名、副査2名)による審査及び最終試験(口述)により評価される。
アドミッション・ポリシー	
求める 人材	体育・スポーツの推進並びに心身の健康増進にかかわる実務実績と基礎知識を有し、これを基盤としたリカレント教育を通して研究能力を高めようとする意欲や関心を持ち、高度専門職業人として各種関連領域で活躍できる人材、企画・新規事業開発力・実践力を身に付けたい企業や団体等のマネジメント人材を求める。
入学者選抜 方針	推薦入試(スポーツヘルスプロモーション分野及びスポーツウエルネスマネジメント分野)と一般入試(スポーツヘルスプロモーション分野のみ)を実施。配点は、推薦入試(スポーツヘルスプロモーション分野及びスポーツウエルネスマネジメント分野)は書類審査50点、口述試験50点、一般入試(スポーツヘルスプロモーション分野のみ)は、書類審査30点、専門科目試験30点、口述試験40点でそれぞれ合計得点により選抜する。